



## 1. 軍政続くミャンマーから学友レポート

今年2月1日から、毎日の悲しい出来事に、ああこれが夢だったら……と考えぬ日はありません。心が壊れそうになるのを耐え、平和と安全を祈る日々です。

あの日から私たちの生活は一変しました。今まで毎日やる事がたくさんありましたが、できる事がほんの僅かに限られ、何をするにも不安がつきまといます。インターネットは企業用と光ファイバーしか繋がらないので、多くの市民は外部の情報を得ることができません。私の教室では、せめて子供たちの教育だけは守りたいと、オンライン授業を続けていますが、それも困難な状況です。最低限の買い物や銀行へ行くといった外出すら安全ではありません。



ある日のデモの様子（学友が参加しているわけではありません）

今までたくさんの苦勞を乗り越えてきましたが、今回ほど辛いものはありません。一番辛いのは全面的に自由がなくなった事です。自由に話せない、自由に動けない、自由に教育が受けられない、自由に働けない、自由に人を助ける事ができない、自由にボランティアができない――。

学友会メンバーとは全員は連絡が取れていませんが、皆無事だと思います。ただ、最近是有名人、医者、ボランティア団体などが狙われ、逮捕されたりしています。集まると目をつけられるため、今ミャンマーではロータリークラブの例会や活動、米山学友会活動を行うことができません。互いの連絡も控えている状況です。

ミャンマーの若者は勇気があり、心優しく、賢い人が多いです。私はこの国の未来のために、これからもミャンマーで次世代の若者や子供を育てる仕事を続けて行きたいです。

国内は経済状況が悪化し、支援が必要な国民が増えています。ミャンマーの平和な日常を皆の力で取り戻し、今後もロータリーの活動がミャンマーで継続できるよう願っています。皆様の応援にいつも心から感謝しています。

（匿名希望 2010-11年度米山奨学生より）

## 2. 被害を受けた家庭へ物資などを提供

ミャンマーの現状に心を痛めた大阪在住のロータリアンが支援を申し出たことを受け、在日ミャンマー人学友（匿名希望 2018-20年度米山奨学生）が家族の協力のもと、現地で被害を受けた家庭約 30 軒に米などの食料と生活必需品

を提供したほか、父親を亡くした高校生へ1ヶ月分の学費を寄付しました。



寄付者の氏名が添えられた物資を受け取る人々



### 3. 「学友の集い」で米山をアピール！

4月10日、第2580地区（東京）が主催する第2回「学友の集い」が開かれ、学友やロータリアンなど97人が会場に集まったほか、オンラインでも28人が参加しました。

このイベントは、ロータリー学友（青少年交換、インターアクト、ローターアクト、RYLA、ロータリー財団奨学金、米山奨学金などの修了生）が、プログラムや年代を超えて交流できる場として企画されたもので、第1回目は2019年5月に実施されています。

当日は、野生司義光ガバナー、そして第2750地区から参加した青柳薫子青少年奉仕委員長の挨拶に続き、各プログラムの学友代表がそれぞれの活動について報告しました。ロータリー米山奨学生学友会（東京）からは、理事長のイット チャンソクピアさん



（2010-11／東京田無RC）が登壇し、学友会の活動を報告しました。その後、学友らが中国クラシックダンスと朗読、バイオリン、ピアノや二胡による演奏、モンゴルや沖縄民謡の独唱、三味線と笛による日中伝統楽器合奏などを次々

と披露し、会場を沸かせました。最後は、米山学友・現役奨学生27人全員が立ち「上を向いて歩こう」を合奏・合唱しました。

前理事長の梁一強さん（1999-2001／東京四谷RC）は、「昨年、日本のロータリー100周年を記念して企画した『インターナショナル

サロン2020』が、新型コロナウイルスのため中止となったが、そこで披露する予定だった演目を発表する機会をいただき、とても感謝している。今後も学友が母国を紹介できるような交流の場を作っていきたい」と、語りました。

### 4. 寄付金速報 — 4月単月はやや回復 —

4月までの寄付金は前年同期と比べて0.7%減（普通寄付金：0.4%減、特別寄付金：0.8%減）、約790万円の減少となりました。ただ、4月単月の寄付額を見ると過去3年間で最も多く、復調への兆しも見えます。全国的に例会を休会し

ているクラブが多い中、ロータリアンの皆様からのご支援に深く感謝申し上げます。まだ収束の見通しが立たず、今後の不安も残りますが、これからも当奨学事業へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

### 5. 『ロータリーの友』で学友の寄稿を連載中！

『ロータリーの友』に毎号、「よねやまだより」のページがあることをご存じでしょうか？

今年度からは好評の新シリーズ、「米山から世界の町へ」を連載中です。米山学友が自分の住む町の紹介や自身の近況をつづりながら、日本のロータリアンへ向けたメッセージを書いています。海外との往来が制限されている昨今ですが、近い将来、ぜひ学友の母国や地元を訪ねてみてはいかがでしょうか。現地から、そうしたレポートを書いてくれる学友がいましたら、



[seminar@rotary-yoneyama.or.jp](mailto:seminar@rotary-yoneyama.or.jp)（広報担当：野津）までご連絡ください。